

鳴瀬氏館跡(入間郡越生町)

築城年代:鎌倉時代、築城者:鳴瀬有年

ここは見正寺/背後の山が弘法山





六地藏



さまざまな石造物がある



これが見正寺の本堂で、この辺りが鳴瀬氏館跡の第一候補とされる



脇には水堀のような池が



その横を通過して裏山の弘法山へ登ろう





振り返って見下ろしたところ



さて、上に平場があるようだ



左手斜面を見たところ/何やら大きな溝がある



上から見るとこんな感じ/これは豎堀か/左手の細い道が今登って来たルート



踏み段があり、別の登りルートのようにだ



さて、ここがその平場/ここまで車で上がってこれるようだ



振り返って見たところ/駐車場になっている/この辺りが鳴瀬氏館跡の第二候補とされる



さて、この上(弘法山中腹)に「弘法山観世音(子育て観世音)」があるようだ





弘法山と子育て観世音

越生町成瀬

弘法山こうぼうやまは、山頂に諏訪神社、中腹に観音堂、山麓に見正寺けんしょうじがあり、全山に信仰対象が置かれている。古くは「高房山」と記されており、当地の小字名も「高房たかふさ」である。観音堂の本尊の観音菩薩が弘法大師の作と伝えられていることなどから、「弘法山」と表記されるようになったものと考えられる。

山頂からの優れた眺望については、江戸幕府が編さんした地誌『新編武蔵風土記稿しんぺんむさしふどきこう』に「高房山圖」の絵入りで掲載されている。「高さ五丁余りにて、四辺は松杉生ひ茂りて中腹に妙見寺みょうけんじあり。夫より頂までは殊に険阻の山なり。頂には浅間せんまの祠を建て、祠辺よりの眺望最も打ち開けたり。先ず東の方は筑波の山を始めとして、比企、足立、江戸を打越して、遠く房総の山々を見渡し、南は八王子の辺までのあたりに見え、西は秩父ヶ岳及び比企郡笠山かさやま、乳首山ちくびやまなど連り、北は三国峠みくにとうげより信州、越州の高山見えたり」と、海拔二百メートル足らずの山について異例の紙幅を割いている。

現在、浅間社は山麓から遷座せんざした諏訪神社に合祀されている。妙見寺は廃寺となったが、のこされた観音堂は安産子育ての観音様として参拝者が絶えない。乳房をかたどった縦いぐるみを奉納する習俗は、民俗学的にも注目されている。

平成二十五年三月

これがその観世音を祀る観音堂





境内の平場/この辺りが鳴瀬氏館跡の第三候補とされる



こんな感じ



参考ホームページ

<http://jvokakuzukan.la.coccan.jp/002saitama/164naruse/naruse.html>

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/02_iruma/012_ogose/ogose.html

http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/naruseuji_yakata.html

<http://ckk12850.exblog.jp/6191529>

